

幼児教育の推進体制構築事業（2年次報告）

はじめに

香川県では、昨年度より県内全ての幼稚園・保育所（園）・認定こども園において、「香川県幼児教育振興プラン」の理念である「心いっぱい、体いっぱい 遊びこむ子ども」の育成を旨とし、保育者が「一人一人の子どもの確かな理解に基づいた適切な環境を与え、学びを支える」役割を果たしていけるよう、園（所）内研修の充実、キャリアステージに応じた人材の育成に取り組んできました。

取組の成果等の紹介

ここでは、平成29年度における取組の成果等について紹介します。各園（所）において、次年度に向けて事業の積極的な活用や取組の参考にしていただきますようお願いいたします。

I 県幼児教育スーパーバイザーの派遣

幼児教育に関する知識・経験を有する幼児教育スーパーバイザーが、要請のあった幼稚園・保育所（園）・認定こども園を巡回訪問し、教育内容や教育方法などについての相談、保育や園（所）内研修に対する指導・助言等を行い、園内研修等の支援を行いました。

<訪問園（所）数等>

幼稚園（幼稚園型認定こども園含）			保育所（園）		認定こども園	
国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立
0園	11園	1園	7所（園）	4所（園）	3園	0園
0回	20回	2回	10回	7回	3回	0回

<成果>

- ・1年次より、派遣を要請した市町が増えたことや、同じ園（所）から複数回の派遣要請があったことなど、主体的に研修に取り組む園（所）が増えてきました。

<課題>

- ・1回の訪問では、相談内容へのアドバイスからどのような変化があったのか、指導や助言がどう生かされたのかなど、その後へのつながりが見えてこないことが残念です。
- ・訪問用の保育ではなく、日々のありのままの保育を、県幼児教育スーパーバイザーとともに振り返り、悩みや課題について話し合っていくことが重要です。

訪問した園（所）では、保育や子どもの姿についての話し合いを通して学び合う様子が見られるなど、保育の充実や質を向上させようとする意欲を感じました。

若年保育者や中堅保育者等の日常の困りごとや悩みについて、ちょこっと訪問（相談）や、しっかり訪問（助言）など、それぞれの施設の実情に応じた方法で話し合ってみませんか。

一人一人の確かな理解と興味関心に基づいた環境構成の中で「心いっぱい、体いっぱい 遊び込む子ども」の姿をめざす保育について一緒に考えていきましょう。



【県幼児教育スーパーバイザー】
永田 洋子 先生
森 あい子 先生

Ⅱ ミドルリーダー養成研修

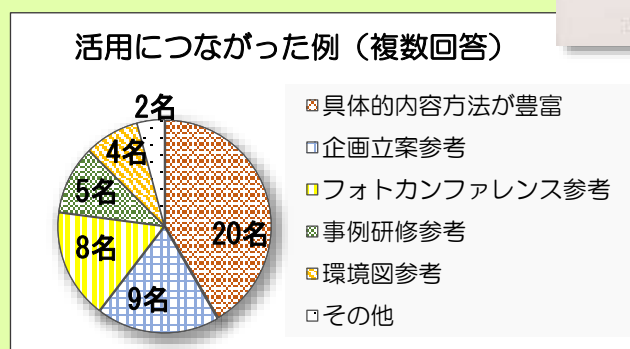
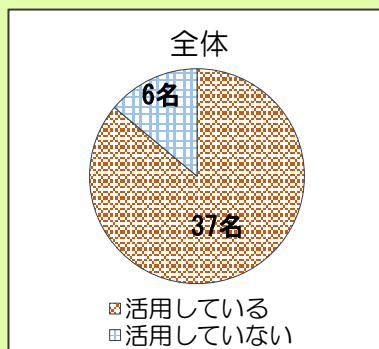
園（所）における幼児教育の質の向上には、ミドルリーダーが園（所）内研修をどのように進めていくのかが大きなカギとなります。

公私立の幼稚園・保育所（園）・認定こども園の主任等、ミドルリーダー的役割を担っている者を対象に、園（所）内研修等を推進していくための心構えや必要な実践力を養うための研修を年3回（5・7・11月）行いました。

研修を修了した43名の参加者にアンケートを行いました。



1 「園内研修の手引き」の活用状況

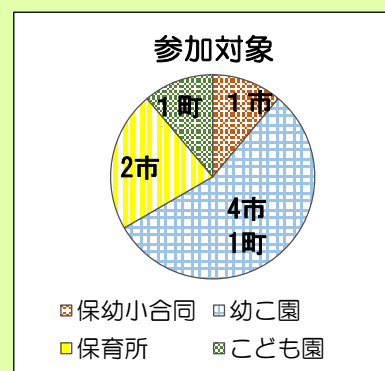
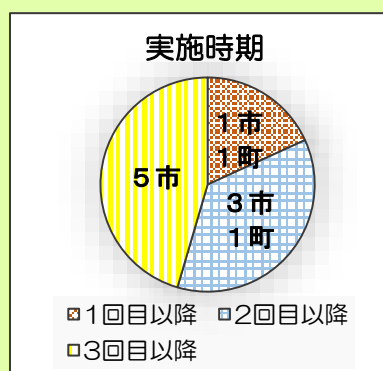
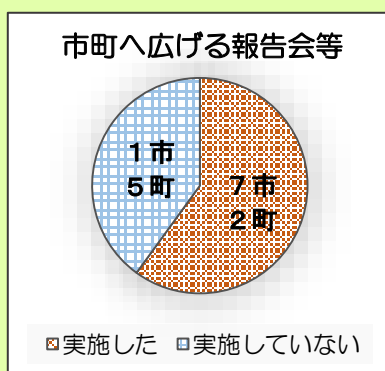


○参加者のほとんどの園（所）が、「園内研修の手引き」を園（所）内研修等で活用しています。

○具体的な実践方法が分かりやすく図式化されるなど、活用しやすいとのこと。

☆意見からは、慣例の研修から目的意識のある研修に移行しつつあるように感じます。

2 学びの共有状況



○参加者の6割の市町で、報告会等を実施しています。

○年度の初めに報告会を計画している市町もあるとのこと。

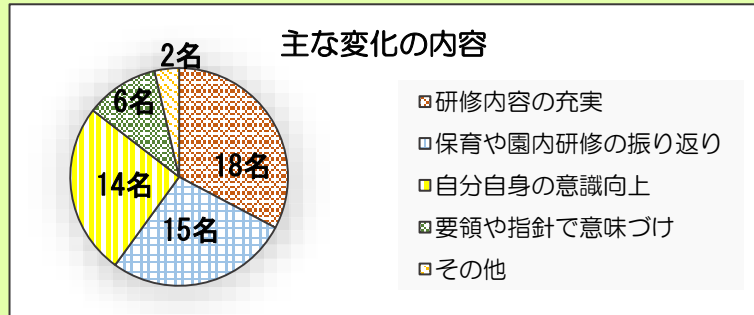
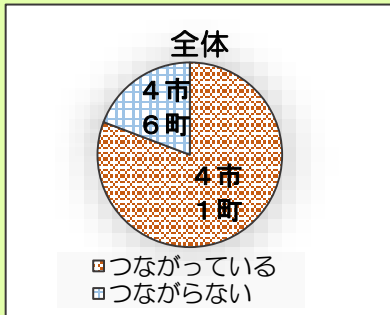
☆報告会等の機会があることで、参加者のミドルリーダーとしての意識がより高まっていると感じます。



ミドルリーダー養成研修は、幼稚園・保育所（園）・認定こども園が合同で行っている研修です。合同研修を行うことで、互いの教育について理解を深めたり、方向性を共有したりもすることにつながっています。

是非、市町での合同研修につなげてほしいと思います。

3 保育の質の向上



○園（所）内研修の充実が、保育者の質の向上につながっていると感じています。
 ○若年の保育者からも、意見が出やすい園（所）内研修になってきているとのことです。
 ☆保育と教育要領や指針をつないで振り返ったり、意味づけしたりすることができるようになってきているなど、研修内容の充実が図られていると感じます。

善通寺市幼児教育研修会で、修了者2名が報告を行いました。

○開催日：平成29年12月26日

○参加者：市内幼稚園・保育所（園）の保育者等、市内小学校低学年の担任等



【ミドルリーダー養成研修の報告】

「生活発表会を通して、子どもたちに何を体験させるところが大切なのだろう。長い台詞や決まった動きを完璧に覚えること…、それが主体的ではないんだな」と、感じられる報告でした。

想像を膨らませながら、みんなで物語を作っていくことから始まるおもしろさを、実演を交えて報告されました。



「リョウガくんの保育記録を通して」という研修用DVDの視聴をもとに、幼・保・小それぞれの先生が、自分のクラスの子どもたちへのかかわりを反省的に振り返りながら、大切にしたいことは何かについて、活発に話し合っている様子がとても印象的でした。



【DVD 視聴を通して】

報告者の2人は、研修内容に加えて、「どんなことを学んだのか」「学んだことを園やクラスの実態に合わせてどう保育に取り入れたのか」といったことや、成果や課題も報告されていました。

研修で学んだことを実践に生かしていく営みが、指導力の向上につながるのだと思います。



Ⅲ 若年保育者支援員派遣

若年保育者が増加している中、若年保育者の資質・向上と幼稚園等における園内研修の充実を図るために、幼児教育の専門的な知識・経験を有する者（若年保育者支援員）が、23園（所）を年2回訪問し、保育や悩み等の相談を受けたり、アドバイスを行ったりして、若年保育者のフォローアップに努めました。

訪問先の丸亀市立飯山南保育所にインタビューしました。

🌸 若年保育者（3年目）より

「加配の先生に助けられた時、『ありがとう』の一言が言えることが大事ですよ。その一言で、また一緒に頑張ろうと思えますよ。」とアドバイスを受け、感謝の思いを伝えること、担任と加配保育士が、少しの時間でも子どもの様子を伝え合うことを大切にしてきました。自分では気付かなかった子どもの姿を知ること、幼児理解も深まったと思います。翌日、子どもに声をかけたり遊びにかかわったりするチャンスにもなり、子どもたちとの関係がさらによくなって嬉しかったです。

🌸 所長より

いつもよく分かるアドバイスをいただき、若年保育者からは前向きな姿勢を感じました。外部の方から支援を受けることで、若年保育者だけでなく、私自身も改めて大切にしたいことを確認できました。また、どのように伝えればよいか、勉強になりました。

🌸 若年保育者支援員より

2回目の訪問が終わった時、「次はいつですか?」「もう1回来てくれると思ったのに残念です。」と、嬉しい言葉をもらいました。自ら伸びようとする芽をみたようで、とてもたのしく思いました。

若年保育者支援員の先生方からの声

どの若年保育者も、「認められたい」という気持ちを強くもっていると感じました。小さな成功を褒められると、とても嬉しそうでしたよ。

先輩保育者の保育を見る機会があるといいですね。

手作りの教材などを一緒に作りながら話をすることが、仲間づくり、悩み相談、大切なことへの共通理解にもつながってきますよ。

キーワードは・・・

バックアップ体制

だと思います。園全体で若年保育者が安心して保育を続けることができるような支援体制を整えていきましょう。

打ち合わせの時間を取るようになると、保育者の関係がうまくいくようになった例もあります。話をするって、とても大切なのですね。

若年者がいる園を対象としている取組なので、対象者を正規職員、若年保育者だけに限定せず、臨時職員や中堅保育者もみんなと一緒に研修しましょう。



【若年保育者支援員】

永田 洋子 先生・森 あい子 先生・三谷 しのぶ 先生・六車 裕美子 先生・森 玲子 先生